

## 稲作農家の豊かさ観の過去・未来とその影響要因 —アンケート調査による接近—

山梨大学大学院 医学工学総合研究部 教授  
一般社団法人 J A 共済総合研究所 客員研究員

渡 辺 靖 仁

### アブストラクト

本研究では、まず、J A 共済総合研究所の行ったアンケート調査の個票を用いて、稲作農家の「過去と将来の豊かさ観」に影響を与える要素を計量的に分析した。これによって、①経営の持続可能性を担保する後継者の存在は、将来の豊かさをもとめること、②大規模経営であっても自分の代で廃業を考える農家の場合、将来が豊かになるという皮肉な結果もみられること、③農協職員の種々の相談活動の有無といった中間組織の機能発揮が、過去と将来の豊かさ観にプラスの影響を及ぼすことなどを明らかにした。次に、中間組織の立ち位置をより確かなものとするために、近年の公共政策の市場化と、地域社会の関係性を考慮する政策展開というふたつの傾向を考察した。この傾向は、関係性を鍵に、行政サービスの提供内容に格差が生まれる「狭い地域」が著増する可能性を示唆する。従って稲作農家の豊かさ観に影響を及ぼし得る農協などの中間組織は、このことを認識したうえで今後取り組む事業を検討すべきと主張した。

(キーワード) 豊かさ観 中間組織 関係性

### 目 次

|                               |                                                  |
|-------------------------------|--------------------------------------------------|
| 1 課題                          | 3) 「5年前・5年後も豊か」となることに影響する要因                      |
| 1) 水田農業の概況                    | 4) 「5年前からは豊かになっていないが、5年後は豊か」となることに影響する要因         |
| 2) 課題                         | 5) 「5年前からは豊かになっているが、5年後は豊かにはならない見込み」となることに影響する要因 |
| 2 先行研究と本研究の特色                 | 6) 「5年前からも、5年後も、豊かではない」となることに影響する要因              |
| 1) 幸福度と豊かさ観                   | 5 今後の課題                                          |
| 2) 幸福度の研究                     | 6 中間組織の意義の再検討                                    |
| 3) 本研究の特色                     | 1) 政策による市場創設という方向性と農業政策                          |
| 3 データ                         | 2) ナショナルミニマムに及ぶ市場創設                              |
| 1) アンケート調査の概要                 | 3) その含意                                          |
| 2) 主観的豊かさの変化                  | 7 終わりに                                           |
| 3) 計測モデル                      |                                                  |
| 4 推計結果                        |                                                  |
| 1) 「5年前と比べて豊かになった」ことに影響する要因   |                                                  |
| 2) 「5年後は豊かになる見込み」となることに影響する要因 |                                                  |

## 1 課題

### 1) 水田農業の概況

日本の水田農業の持続可能性の乏しさについては、早くから危惧されてきた<sup>(註1)</sup>。よく知られている通り、農地改革によって1947年に485万戸もの自作農が生まれた。その後の日本経済の高度成長により、北海道の農家は耕作規模の拡大を選択した。一方、都府県の稲作農家は、兼業深化を選択した。都府県の場合、経済成長によって近隣に雇用吸収力が生まれたこと、自作農主義並びに減反政策と米価の低迷などによる、個々の農家の合理的な判断の結果である。ところが、自作農主義による農地の乏しい流動性のもとで農家の高齢化による離農が近年増加し、1965年に488万戸あった水稻収穫農家は、2010年には116万戸弱に減少した<sup>(註2)</sup>。現在、地域の稲作農業の持続可能性を高めるために大規模農家に農地を集積する動きが顕著となるほか、集落営農による地域農業の維持のための手立てが講じられ、農地をはじめとする経営資源の流動化が活発化する局面を迎えている。農業政策でも、「農地中間管理事業の推進に関する法律」の成立（2013年）や5年後を目途にコメの生産調整手法を見直す方針が定められるなど、戦後農政の転換期が到来している。

こうした稲作農家の担い手不足が地域社会にもたらす問題は、一部の集落では昭和40年代からすでに認識されていた。いわゆる限界集落における耕作放棄地の増加は、統計がとられてそれが埼玉県や滋賀県に相当する面積に至ると標榜されるはるかに以前から、該当する地域では深刻な問題であった。米価が傾

向的に下がるようになってからは、稲作農家の経済的な豊かさはもちろん減殺される。これに加えて高齢化と人口減少による集落機能の弱化は、心理的な豊かさにも陰を落とさざるを得ないであろう。

### 2) 課題

本稿の課題は、このような状況下にある稲作農家の非経済的・心理的な豊かさに対する主観的な感覚（以下「豊かさ観」とする）の変化と要因を計量的に明らかにし、その含意を検討することにある。豊かさ観の変化とその要因の計量的な把握には、JA共済総合研究所が行ったアンケート調査の個票を用いた。より具体的には、こうした稲作農家の心理的な豊かさ観が、過去5年どのように変化してきたか、今後5年でどう変化するかを明らかにし、これに影響する要因を示す。その結果を踏まえて、稲作農家の地域における豊かさ観を維持するのにどのような手立てが必要かについて検討する。検討にあたっては、農協や各種NPOなどの中間組織の役割にも特に注目することとしたい。

もとより豊かさといった個人の価値判断に強烈に裏打ちされる分野の領域について、さらにその主観的な評価について聞くことの意義は古くから論争となってきた。質的な評価をめぐる研究そのものが内包する課題である（大竹他（2010））。しかし渡辺（2011）で指摘したとおり、その指標の程度と社会状況との関連を分析する意義は失われない。さらに本稿では、すぐあとに述べるように、この調査結果の経年変化にも注目する。いうまでもなく2011年は東日本大震災があった。その前後で、個人の感じる豊かさにはいかなる変化

が認められるであろうか。そう位置づけるならば、いわゆる豊かさの過去の変化・今後の展望も、その地域で暮らす人たちの価値観とその変化を映すものとして計測する価値が認められると考える。

稲作農家へのアンケート調査で、豊かさの過去と未来の動向を聞く設問は、2010年から設けられた。渡辺（2011）において、地域における誇りの空洞化に歯止めをかける、自己確認と自己肯定のための簡易な方法を開発するという検討の経過から、農家についても同様の研究を拡張すべきという判断があったためである。したがって、本研究に取り組む2013年9月の時点で利用可能なアンケート調査結果は、2010・2011・2012年の3年間の蓄積にとどまる。ただ、この3年間の間に、経済社会では特記すべき事項が並んだ。東日本大震災・政権交代・領土に関する議論・時の政権によるTPPへの唐突な参加表明などきわめて広範囲に及ぶ。この国の経済社会の在り方を根本から見直す必要のある出来事も少なからず発生している<sup>（註3）</sup>。

終戦直後の食料難の再発を防ごうと尽力し、「農は国の大本」と信じて瑞穂の国を体現しコメを作り続けてきた農家は、戦後の高度成長で実現したまれにみる豊かな食生活と、一人当たりのコメ消費量が洋風化によってほぼ半減した現状をみて、みずからの豊かさの過去と将来の展望をどう描いているのであろうか。また、農家の社会的個人的属性は、その豊かさ観の変化にどのような影響を及ぼしているのであろうか。以下では、このような問題意識から、利用可能なデータを用いて、その一端に迫ってみることとした

い。

以下、本稿の構成は、次節で関連する研究に触れ、第3節で用いたデータを解説する。第4節で推計モデルの解説を行い、第5節で推計結果を述べ、第6節でその含意を検討する。第7節は結論部分である。

## 2 先行研究と本研究の特色

### 1) 幸福度と豊かさ観

幸福度と豊かさの感覚は、もちろん同じではない。しかし、心理的な豊かさを感じる事ができれば幸福に近づくであろう。幸福であることが、精神的なゆとりや豊かであることの感覚をもたらすのも自然である。したがって、幸福度の基礎の一つに、豊かさの感覚があるとここではとらえる。

この幸福度の把握に関しては膨大な先行研究がある。これらに関しては、松島ほか（2013）にまとめられているので、詳細はそれに譲る。ここでは、幸福度に影響を与える要因の先行研究のうち、本研究との関連の強いものを次項で触れ<sup>（註4）</sup>、第3項で本研究のユニークな点を述べる。

### 2) 幸福度の研究

幸福度の決定要因として、所得、就業状態、健康、婚姻状態といった社会的な属性が幸福度と関連を持つことは、「今では定式化された事実（Stylized fact）といえる」（松島（2013））。また、年齢や性別といった個人属性も影響があると指摘されている。

#### (1) 所得

所得が幸福度へ及ぼす影響の研究については、一国の所得水準と国民の幸福度は必ずしも相関しないことを実証したEasterlin（1974）

が経済学の分野では最も早い。ある所得水準を境に幸福度が上がりにくくなる。いわゆる Easterlin Paradoxである。同様の研究は、米国に関するBlanchflower and Oswald(2004)、OECD諸国を対象としたBoarini et al. (2006) など、多数みられる。

また、所得格差が大きいほど平均的な幸福度は低下する。米国の例では、Hagerty (2000)、中国の近年の幸福度低下を所得格差によるとするBrockmann et.al. (2008)、日本でも同様に、所得と満足度の関係が逆U字形となる傾向を示した筒井・大竹・池田(2005)、所得の不平等感を持っている人ほど幸福度が低いとする大竹(2004)の研究がある。

## (2) 就業状態

標準的なミクロ経済学における家計の労働供給モデルでは、労働は収入を得るためのものであり余暇とトレードオフの関係にある。しかし、いままでの幸福度研究では、就労者は失業者に比べて幸福度が高いという結果が得られている(Di Tella et al. 2001; Clark and Oswald 1994; Frey and Stutzer 1999)。就業による社会的地位や職場を通じた人とのコミュニケーションなどが幸福度に正の影響を与えるという報告もある(Stutzer and Lalive (2004))。

また、国の失業率の高さが就業者でも幸福度を低めており、社会情勢がもたらす不安感によって幸福度も変化する可能性が指摘されている(Di Tella et al. (2001))。

日本でも、非就業者は、就業者よりも幸福度が高いという研究(佐野・大竹(2007))がある。また、非就業者を主婦・学生・無職

と分けて就業者と比較した分析では、管理職は、(ア)所得は高いがそれに応じた仕事での責任や重圧感が大きいので幸福度を低める、(イ)所得の影響を取り除くと学生のように責任や重圧感が小さい方が幸せである、という点を示唆する研究(筒井・大竹・池田(2005))がある。

## (3) 健康状態

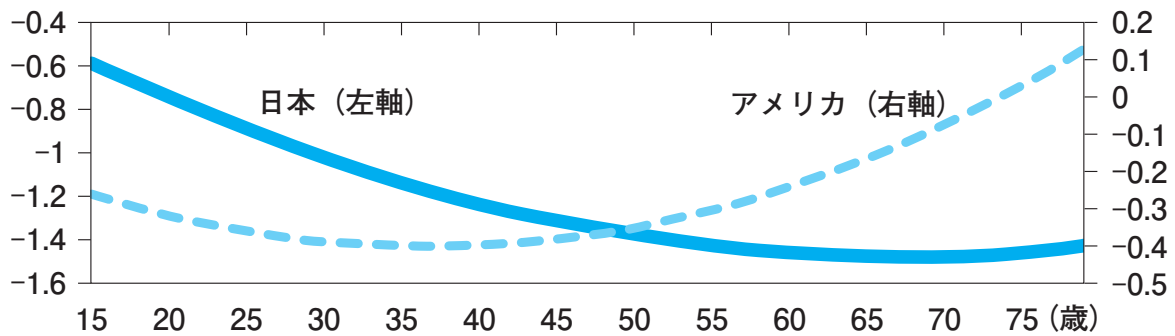
健康と幸福度の関係について、その因果関係はともかく、正の相関があることを示した研究は多数蓄積されている。Easterlin(2003)は米国のGeneral Social Survey (GSS)を用いて分析し、あらゆる世代で主観的健康感と幸福度に正の相関があることを明らかにしている。Veenhoven(2008)は幸福であるほど健康維持に努めるのではないかと指摘している。このように、健康と幸福度の間には強い相関関係が存在しており、相互に影響し合っている。

## (4) そのほかの属性

婚姻状態についても、一般的に、既婚者は、未婚者・離婚者・死別と比べて幸福であることが報告されている(色川(1999)など)。個人属性でも、日本では高学歴であること(筒井・大竹・池田2005; 大竹2004)、女性であることが幸福度に正の影響を与えている。

年齢と幸福度の関係は内外で異なっている。海外での先行研究は、年齢と幸福度は40歳代前後を底辺としてU字型の関係にあるという結果が多い(Blanchflower and Oswald(2008)など)。日本においては、U字型の関係ではなく、年齢は幸福度に負の影響を与えるという研究がある(佐野・大竹2007)。

図1 年齢毎の主観的幸福感（米国との対比）



（出典）内閣府『平成20年版国民生活白書』図表 1-3-5

### （5）将来の展望

幸福度と将来の展望について定量的な分析をしている研究は少ない。将来の幸福度の展望や見通しを尋ねる調査としては、Cantril Self-Anchoring Scaleが5年前・現在・5年後の生活満足度を聞いている。しかし将来展望に関する分析は十分ではない<sup>（註5）</sup>。

しかし、Durayappah（2011）は、過去の記憶・現在の状態・予想される将来の状態が幸福度を形成すると主張する。明るい将来展望を持つことや楽観的であることは、精神的な健康・生活の質・主観的幸福感にとっても重大な意味をもつ（Kimweli & Stilwell（2002）；Lu（2001）；Simsek（2009））。

松島（2013）では、「幸福度を検討する上で時間的展望を考慮に入れることが重要であるならば、現在の幸福度と予想する将来の幸福度を区別して考え、それぞれの決定要因にどのような共通点・相違点があるか検討することは政策の議論においても有意義」とし、「日本人の将来への展望について現状を把握するとともに、どのような人が将来への希望を持つのか、また現在の幸福度と予想する将来の幸福度の決定要因がどのように異なるかを考察」している。分析に用いたデータは平

成23年度に内閣府経済社会総合研究所（ESRI）が行った「第1回生活の質に関する調査」の個票である。分析の結果、「現在の幸福度には、主観的健康感、世帯収入、婚姻状態、就業状態が影響していることが明らかとなった。また、5年後の将来の幸福度が現在より低下すると感じさせている要因は「加齢」、「最終学歴高卒」、「学生」であり、向上すると感じさせている要因は「主観的健康感」、「世帯収入」、「子どもの数」であった」。

### 3）本研究の特色

前項で見た幸福度に関する先行研究は、いずれも国民全体を対象としている。職業別に細分化された研究でも、農家は対象となっていない。本研究では、稲作農家を対象とする分析という点で、先行研究と異なる。また、豊かさ観の過去と今後の展望の要因について、3年間の状況を見て経年変化の有無や影響の大きい年、地域を検討する点で、先行研究にはない特色がある。

## 3 データ

### 1）アンケート調査の概要

本稿で用いたデータは、農家の保障ニーズ

の把握を目的としてJ A共済総合研究所が行ってきたアンケート調査である。以下、この調査の概要を解説し、水田農業の弱化の傾向との関連も述べる。

このアンケート調査は、保障需要と農協共済への意識の経年変化を知るために2005年から7年に亘り継続して実施されてきた。原則として同一の農家を対象とする定点観測である。

調査対象農家の選定は、層化2段による無作為抽出と機縁法の併用である。まず、全国の都道府県から一定数を選択する。業種は稲作と酪農であるが、本稿の保障需要の分析では稲作のみを対象とする。

都道府県別の選択数は、北海道30戸（うち稲作20戸）、都府県各4～6戸（稲作3～5戸）である。農家数の幅は都府県の農家数割合を考慮している。さらに平地と中山間地が半分に分かれるように選定した。

各都道府県の中で、代表的農村地域を3～5か所選び、当初は各都道府県に駐在する調査員の知人を通じて農家を選定した。この農家に協力を拒否された場合に、農家の知り合いを紹介していただく方法をとった。認定農業者を中心とした選定を心掛けたが、その割合は7割にとどまった。各農家は、ひとつの農業集落に集中させないなど地理的に偏らないようにも設定している。調査の手法は調査員による訪問面接法である。

7年間継続する間に、高齢化や病気により調査拒否される例が相次いだ。高齢化による廃業の場合、サンプル数を維持するために近隣の農家の紹介を得て代替した。しかしこの数年は近隣の農家もろともその集落の農業が

消滅するなどの理由で調査対象農家の補充が追いつかず、調査対象農家数は漸減している。

## 2) 主観的豊かさの変化

本アンケート調査に、次の二つの設問がある。

「問13. 5年前と比べて、人間関係や興味・関心・趣味、暮らしの質などの点で、あなたご自身の生活が豊かになったという実感はありますか。（S A）※収入など金銭面・経済面のことは除きます。」

「問14. では、現在と比べて、5年後は、あなたご自身の生活は豊かになりそうだと思いますか。（S A）」

問13は豊かさ観の過去の変化、問14はその今後の予想ないし展望である。

特に社会的変化との関連を見るため、この二つの問いを設けた2010年から2012年までのサンプルを分析対象とする。途中消滅・新規追加のサンプルがあるアンバランスパネルデータである。

## 3) 計測モデル

本稿では、主観的豊かさの過去5年間・向こう5年間の変化に対する回答結果に影響を及ぼす要素を探る。豊かさに関する過去・将来の変化に関する評価を被説明変数、調査対象者である稲作農家の世帯情報・経営情報・リスク観・地域や農協などの中間組織に対する評価、立地区分などを説明変数とするモデルを構築し、その推計結果を検討することで、豊かさへの影響要因を考察することとする。

### (1) 被説明変数

被説明変数には、次の6つを用いた。

(a) 「5年前と比べて豊かになった」

＜問13. 5年前と比べて、人間関係や興味・関心・趣味、暮らしの質などの点で、あなたご自身の生活が豊かになったという実感はありますか。(S A) ※収入など金銭面・経済面のことは除きます。＞なる質問への回答結果について、次のように回答コードを振りなおして被説明変数とした。

この質問への回答は、質問紙では、「1. そう思う 2. ややそう思う 3. あまりそう思わない 4. そう思わない 5. わからない」、の5段階であった。本分析では、「1」・「2」を統合して「1」、「3」・「4」を統合して「3」、「5」を「2」なるコードに振りなおしている<sup>(註6)</sup>。

(b) 「5年後は豊かになる見込み」

＜問14. では、現在と比べて、5年後は、あなたご自身の生活は豊かになりそうだと思いますか。(S A) ※収入など金銭面・経済面のことは除きます。＞なる質問への回答結果について、(a)と同様に回答コードを振りなおして被説明変数とした。

この質問への回答は、質問紙では、「1. そう思う 2. ややそう思う 3. あまりそう思わない 4. そう思わない 5. わからない」、の5段階であった。本分析では、「1」・「2」を統合して「1」、「3」・「4」を統合して「3」、「5」を「2」なるコードに振りなおしている。

(c) 「5年前・5年後も豊か」

この変数のコードは、(a) (b) への回答結果が、統合されたコードとともに「1」である場合に「1」を、それ以外は「0」を振りなおして被説明変数としたものであ

る。過去も未来も豊かであると感じる、相対的に見れば楽観的な集団である。

(d) 「5年前からは豊かになっていないが、5年後は豊かになる見込み」

この変数のコードは、(a) への回答結果が、統合されたコードで「1」以外であり、かつ、(b) への回答結果が統合されたコードで「1」である場合に「1」とし、それ以外の回答結果の場合に「0」と振りなおして被説明変数としたものである。過去5年はネガティブであったが、5年後は明るい将来を描けるというイメージに近いものと考えられる。

(e) 「5年前からは豊かになっているが、5年後は豊かではない」

この変数のコードは、(a) への回答結果が、統合されたコードで「1」であり、かつ、(b) への回答結果が統合されたコードで「1」以外である場合に「1」とし、それ以外の回答結果の場合に「0」と振りなおして被説明変数としたものである。過去5年は豊かになる実感があったものの、今後5年間はそうではない、楽観から悲観に転じる集団である。

(f) 「5年前・5年後も豊かではない」

この変数のコードは、(a) (b) への回答結果が、統合されたコードとともに「1」以外である場合に「1」を、それ以外は「0」と振りなおして被説明変数としたものである。過去も未来も豊かではないと感じる、相対的に見れば悲観的な集団である<sup>(註7)</sup>。

以上のこの6つの回答結果に関連のある要素はいかなるものであろうか。これを検証するため、利用可能な調査結果の範囲

で、その背景と要因の考察に資すると考えられるものを検討する。

## (2) 説明変数

説明変数には、次の25個を用いた。

### (a) 世帯の状況

- ・世帯員数 (HHOLD) (カッコ内はモデルの推計に用いた記号。以下同じ)

本稿のモデルで用いたデータは、アンバランスパネルデータである。7年前に調査対象として設置し、その後稲作から撤退したデータも不連続なサンプルとして混入している。このため、説明変数の基本統計量の参考値として、2012年調査結果の平均値などを掲げる。なお、必要に応じてパネルデータの基本統計量も補足する。

世帯員数の2012年調査結果の平均値は、4.6人である。パネルデータとしての平均値は4.57人、標準偏差は1.74であった。

- ・世帯主年齢 (SAGE)

世帯主年齢の2012年調査結果の平均値は、64.6歳である。年々高齢化する傾向は、渡辺(2012)を参照。パネルデータとしての平均値は64.4歳、標準偏差は11.4、最小値36、最大値89であった。

なお、前節で、幸福度と年齢には、諸外国ではU字形の関連のあることが明らかにされているが日本では右下がりであることを指摘した。本研究でも回答者である世帯主の年齢を説明変数に入れた。

先行研究を踏まえ、豊かさ観と年齢について、U字形の関連があるかどうかを計測した。年齢の2乗を含むモデルと含まないモデルで豊かさの度合いに差があるかどうかを推計することによって、これを計測する方法を

とった。しかし日本のほかの先行研究と同様、年齢の2乗の係数には統計的に有意な結果が得られなかった。以下のモデルでは年齢の2乗を外した推計結果を掲げ、内容を解説する。これは推測だが、欧米の先行研究において、40歳程度で幸福観の底に至るのが、ライフスタイルや仕事の責任との関連であるならば、日本の稲作農家は、60代後半になっても地域農業を守るといった使命感にあふれた人の割合の多いことが影響しているのではないかと。つまり高齢になっても「現役」であることから、U字形にはならない可能性が考えられる。もちろん、わが国の場合、年金制度の持続可能性に一部から疑義が呈されたりするように、将来への不安感が及ぼす影響もあろう。加えて、本研究では稲作農家をめぐる不透明な経営環境がさらに追い打ちをかけたのとの議論もあり得る。この点は今後の課題としたい。

また、前節で、幸福度と婚姻状態、性別には関連のあることが明らかにされていることを指摘した。本研究では、回答者の高齢もあり、ほとんどが婚姻者であったこと、世帯主対象の調査で性別はほぼ男性であったことから、分析の対象から外している。

- ・後継者有無ダミー (DKOUKEI)

後継者の有無を表すダミー変数である。経営体の後継者の年齢に1以上の数値の記入があれば、後継者がいるものとした。後継者がいる場合の値は‘1’、いない場合に‘0’をあてている。分析対象データの約34%のサンプルで後継者がいる。

### (b) 世帯の農業経営

- ・兼業収入割合 (そのほかの収入 + 農外収入)

(KENGYSYU)

自営農業の収入以外の収入の割合である。公的年金などの収入も含む。専業農家の場合は‘0’、分析対象データの場合、平均値は12.1%、標準偏差は25.5、最小値0、最大値95であった。

・田の経営規模 (TAKIBO1)

田の面積のうち、所有しているものに借りているものを加え、貸しているもの・耕作を放棄したものを差し引いた面積である。稲作農家の基本的な収入を示す変数である。ただし、この変数は、次の3つの変数「自分が地域農業を担う」・「将来は雇用労働の拡大を計画している」・「将来の経営規模の規模拡大」と正の相関がみられた。したがってこの面積の大きさは、地域の水田農業を背負って立つ意向と比例的なものにとらえることができる。

2012年調査結果の平均値は、6.2haである。ただ、最小値は0.5ha、最大値は12.1haと差が大きい。

・畑の経営規模 (HAKIBO1)

畑の面積のうち、所有しているものに借りているものを加え、貸しているもの・耕作を放棄したものを差し引いた面積である。2012年調査結果の平均値は、4.7haである。田の経営規模との相関係数は極めて低い。

なお、前節で、幸福度と所得には関連のあることが明らかにされていると指摘した。本研究では、ここで掲げたとおり兼業収入割合・田面積・畑面積を問うている。経営規模が農業収入に比例的であることを踏まえている。このほか、先行研究では所得格差も幸福に関する論点であると紹介した。稲作農家であることによる所得格差の認識や地域におけ

る他業種との所得格差の実態についてはデータが得られなかった所以他日を期したい。

・将来は、自分以外の数戸の農家が地域農業を担う (DSUUKO)

地域農業の将来の担い手がだれになるかを聞いた質問項目のうちのひとつへの回答結果である。「将来は、自分以外の数戸の農家が地域農業を担う」選択肢を選んだ場合にその値を‘1’、そうでない場合に‘0’をあてている。なお、田の経営規模と正の関連がみられた「自分が地域農業を担う」のもこの質問の選択肢の一つであった。

前節で、幸福度と就業状態に関連のあることが明らかにされていると指摘した。本研究では、「将来は、自分以外の数戸の農家が地域農業を担う」を説明変数に入れている。水田農業の未来は一般的には暗いと推測されている。地域農業の担い手は、人口論の帰結から見ても、昭和ひとけた世代の大量退出によって、担い手は集約されざるを得ない。その際、自分が担うのか否かは、農業経営の形態と方針にも影響を及ぼす大きな要素であろう。広い意味での就業形態を表す要素の一つである。なお、自分が担うという回答の選択肢もあったが、田の面積との正の相関が高かったため、モデルの説明変数からは割愛している。

また、後継者の有無も説明変数に投入した。自営農業の継続性を決定するかなめとなる要素の一つである。

・売掛金回収リスクの感知 (DRSURIKA)

稲作農家でも農協共販のほかに、コメを自己責任で直接出荷する割合が増えている。本

アンケート調査でも、2012年調査において直接販売する農家の割合は65.3%に上る。もちろん、農協共販へ参加する戸数の割合は76.2%なので、直接販売を併用する農家が珍しいものではなくなってきたのであろう。この場合、売掛金の回収リスクに農家は直面する。このリスクを「意識したことがある」と回答した場合の値を‘1’、そうでない場合の値に‘0’をあてている。2012年調査結果において、これを意識した割合は19.5%である。

なお、この変数は、商標権の侵害、個人情報漏洩などの不祥事、経営指導の内容など生産者情報に関する予期せぬ係争といった、情報リスク・法律のリスクなどと広範に正の相関が認められるものであった。売掛金の回収は、販売先の情報収集・評価にも関連する。したがってこの変数は、情報関連を中心とした経営リスクを意識しているか否かを表すものと考えることができる。

・自然災害等の感知 (DRKSIZE)

「火災・自然災害によるほ場・水利施設・樹園地・ハウス等の損壊のリスク」を「意識したことがある」と回答した場合にこの変数の値を‘1’、そうでない場合の値に‘0’をあてている。この回答結果は、「天候不順(低温)による自然燃料の増大のリスク」と高い関連がみられた。2012年調査結果において、これを意識した割合は27.5%である。このため、この変数は自然災害等を感知するものここでは位置づけた。

・農協共済掛金シェア (JAPWARI)

家計リスクの分散に保険・共済制度を活用している場合、農協共済にたいして支払っている掛金は、家計の支払っている共済掛金・

保険料の中でどれだけのシェアを占めるかを示す変数である。今回の計測では、予備的に投入した。

・生保保険料シェア (SEHPWARI)

家計リスクの分散に保険・共済制度を活用している場合、生命保険会にたいして支払っている保険料は、家計の支払っている共済掛金・保険料の中でどれだけのシェアを占めるかを示す変数である。今回の計測では、予備的に投入した。

(c) 地域の支援体制

・農協職員が頼りになる相談相手ダミー (DSOUJA)

「問6. あなたは、生活で困ったとき、誰に一番相談しやすいですか。(MA)」という質問に対して、「農協の職員」という選択肢を選んだ場合にこの変数の値を‘1’、そうでない場合の値に‘0’をあてている。2012年調査結果において、これを選択した割合は7%である。

公共部門の活動領域が狭まっていくことが予想される今日、農協やNPOなど地域における中間組織の役割は相対的に大きくなる。本研究でこの変数を用いるのは、稲作農家が生活も含めて農協職員を身近な相談者として評価しているかどうかを検証するためである。

・地域をまとめる組織・団体・人がいるダミー (DTIMATO)

「問11. 日常の暮らしの相談などに関する次の項目について、あてはまる組織・団体や相手はありますか。」という一連の質問のなかで、「地域の意見をまとめてくれる」という小問にたいして、「組織・団体がある」「組織・団体はないが、相談できる人はいる」の

二つの選択肢のいずれかを選んだ場合にこの変数の値を‘1’、そうでない場合の値に‘0’をあてている。2012年調査結果において、これを選択した割合は77.5%である。

この回答結果は、地域で「いざという時に頼りになる」団体もしくは人がいる小間への回答結果と正の相関がある。

・貯金保険・財産運用の相談に応じてくれる人がいるダミー（DTISAV）

上記と同様に問11の一連の質問の中で、「預貯金について相談できる」という小問にたいして、「組織・団体がある」「組織・団体はないが、相談できる人はいる」の二つの選択肢のいずれかを選んだ場合にこの変数の値を‘1’、そうでない場合の値に‘0’をあてている。2012年調査結果において、これを選択した割合は49.5%である。

・病気・介護の相談可能（DTISIC）

上記と同様に問11の一連の質問の中で、「病気について相談できる」という小問にたいして、「組織・団体がある」「組織・団体はないが、相談できる人はいる」の二つの選択肢のいずれかを選んだ場合にこの変数の値を‘1’、そうでない場合の値に‘0’をあてている。2012年調査結果において、これを選択した割合は67.5%である。この回答結果は、「育児について相談できる」「介護について相談できる」ことへの回答結果と高い相関を持っている。したがって医療にまつわるニーズ全般への支援体制の有無を表す変数と考えることができる。

なお、前節で、幸福度と健康状態に関連のあることが明らかにされていると指摘した。本調査では、回答の時点で健康な人のみを調

査対象としているので、直接健康状態を聞く質問はもうけられていない。しかし、「病気・介護の相談可能（DTISIC）」という説明変数は、健康状態が損なわれた場合のリスクを緩和する仕掛けが相談業務という形で地域社会に組み込まれているかどうかを表す。その地域に「安心して暮らせる」要素の一つでもある。地域社会にそのようなセーフティネットが用意されているかどうかは、幸福度と健康に関連があるのと同様に、豊かさと健康維持のしやすさとの関連を強く示唆する。

・都市立地（DTOSI）

都市近郊（平場）に立地している場合にこの変数の値を‘1’、そうでない場合の値に‘0’をあてている。2012年調査結果において、これを選択した割合は43.5%である。

・山間立地（DYAMA）

山間に立地している場合にこの変数の値を‘1’、そうでない場合の値に‘0’をあてている。2012年調査結果において、これを選択した割合は15.0%である。

したがって、モデルでは中間地（41.5%）が基準となる。

・誇らしい自然あり（SIZEN）

渡辺（2011）で示した地域の潜在力を評価するための項目の一つである。

「山並みや溪流、段々畑等、自然の景観がいい」という質問に対して「あてはまる」「ややあてはまる」のいずれかを選んだ場合にこの変数の値を‘1’、そうでない場合の値に‘0’をあてている。2012年調査結果において、これを選択した割合は54.5%である。

・伝統大事な地域ダミー（DENTOU）

「郷土を培った知恵や伝統が息づいている地域である」という質問に対して「あてはまる」「ややあてはまる」のいずれかを選んだ場合にこの変数の値を‘1’、そうでない場合の値に‘0’をあてている。2012年調査結果において、これを選択した割合は70.0%である。

なお、この回答結果は、「わらびなどの自然の山菜が採れる」「ホタルがいる」「日常生活を住民同士が分かちあえる地域である」「地域に住む一人ひとりが主役になれる地域である」といった質問の回答結果と高い正の相関がみられた。

・開かれた地域（HIRAKARE）

「地域外からの人を受け入れることのできる地域である」という質問に対して「あてはまる」「ややあてはまる」のいずれかを選んだ場合にこの変数の値を‘1’、そうでない場合の値に‘0’をあてている。2012年調査結果において、これを選択した割合は58.5%である。

・東北地方ダミー（DTHOKU）

東北6県に所在する場合にこの変数の値を‘1’、そうでない場合の値に‘0’をあてている。

・関東甲信越ダミー（DKANTOKO）

関東甲信越地方に所在する場合にこの変数の値を‘1’、そうでない場合の値に‘0’をあてている。

・九州地方ダミー（DKYUSYU）

九州地方に所在する場合にこの変数の値を‘1’、そうでない場合の値に‘0’をあてている。

なお、北海道や東海などこのほかの地域ダ

ミーは、田・畑の経営規模面積との関連が高く見られたため、説明変数から落とした。

・2011年ダミー（YA11）

2011年調査の場合にこの変数の値を‘1’、そうでない場合の値に‘0’をあてている。

・2012年ダミー（YA12）

2012年調査の場合にこの変数の値を‘1’、そうでない場合の値に‘0’をあてている。

時点は、したがって2010年を基準とする。

## 4 推計結果

前節3）（1）で説明した6つの被説明変数に影響を及ぼすのは、前節3）（2）で掲げた説明変数のうちどのようなものであろうか。NLOGIT5を用いた推計結果を以下に示し、特記すべき事項を解説する。データは、プールして行ったモデルとパネルデータとして行ったモデルとがあるが、結果がほぼ同様であったため、プールして行った推計結果を掲載する。

### 1）「5年前と比べて豊かになった」ことに影響する要因

次頁第1表は、「5年前と比べて豊かになった」かどうかを3段階で評価する変数を被説明変数、世帯状況や農業経営状況・立地地域状況を説明変数とする、オーダードプロビットモデルの推計結果である。5年前と比較して豊かになったかどうかを表す潜在的な意向が稲作農家にあるものと仮定している。10%水準以上で有意に0ではないと検定された係数の説明変数を中心に指摘する。被説明変数が豊かさに関して逆順であることに注意して符号を解釈する。

推計結果によれば、世帯主年齢（SAGE）

が若く、後継者（DKOUKEI）がおり、田の経営規模（TAKIBO1）が小さく、売掛金回収リスク（DRSURIKA）を感知しやすく、自然災害リスク（DRSKSIZE）をそれほど意識しない、農協職員が頼りになる相談相手（DSOUJA）であり、貯金保険・財産運用の相談に応じてくれる人（DTISAVE）があり、関東甲信越もしくは九州地方に立地し、2012年であるほどに、過去5年間で豊かになったという意向が強まる。

若いほうが豊かさを実感するのは、日本の

水田農業の将来にとって明るい材料である。また、推計結果から、農業経営の後継者はいるが、大規模経営であるほどに豊かになるわけではない。「皆が経営規模拡大を迫る時代は過去のものになり、」（生源寺2012）それぞれの経営資源の優位性が発揮できる適正規模を探る時代になったと言われるが、本アンケートでも、過去5年で豊かになったと感ぜられるのは、単に規模拡大を追求したわけではないことを示唆している可能性もある。おそらく直売もしているから売掛金リスクなどの

第1表 「5年前と比べて豊かになった」ことへの影響要因

| 説明変数名    | 意味                                       | 係数         | 標準誤差  | 漸近的Z値  | P値    | 信頼区間             |
|----------|------------------------------------------|------------|-------|--------|-------|------------------|
| HHOLD    | 世帯員数                                     | 0.040      | 0.037 | 1.080  | 0.278 | [-0.033, 0.113]  |
| SAGE     | 世帯主年齢                                    | 0.013 ***  | 0.005 | 2.600  | 0.009 | [0.003, 0.023]   |
| DKOUKEI  | 後継者有無ダミー                                 | -0.293 **  | 0.132 | -2.220 | 0.027 | [-0.552, -0.034] |
| KENGYSYU | 兼業収入割合（そのほかの収入+農外収入）                     | 0.000      | 0.000 | -1.060 | 0.289 | [-0.001, 0.000]  |
| TAKIBO1  | 田の経営規模（自分が地域農業を担う+雇用労働の拡大+将来の規模拡大と正の相関）  | 0.002 ***  | 0.001 | 2.680  | 0.007 | [0.000, 0.003]   |
| HAKIBO1  | 畑の経営規模                                   | -0.051     | 0.120 | -0.430 | 0.668 | [-0.287, 0.184]  |
| DSUUKO   | 将来は、自分以外の数戸の農家が地域農業を担う                   | 0.000      | 0.000 | 0.970  | 0.333 | [0.000, 0.000]   |
| DRSURIKA | 売掛金回収リスクを感知（情報リスク・法律のリスクなどと広範に正の相関）      | -0.221 *   | 0.134 | -1.650 | 0.099 | [-0.483, 0.041]  |
| DRSKSIZE | 自然災害を感知                                  | 0.637 ***  | 0.224 | 2.850  | 0.004 | [0.199, 1.075]   |
| JAPWARI  | 農協共済掛金シェア                                | 0.049      | 0.120 | 0.410  | 0.684 | [-0.186, 0.284]  |
| SEHPWARI | 生保保険金シェア                                 | 0.002      | 0.006 | 0.400  | 0.692 | [-0.009, 0.013]  |
| DSOUJA   | 農協職員が頼りになる相談相手                           | 0.000 ***  | 0.000 | -3.340 | 0.001 | [-0.001, 0.000]  |
| DTIMATO  | 地域をまとめる組織・団体・人がいるダミー（地域で頼りになる人がいるのと正の相関） | 0.000      | 0.000 | -1.060 | 0.290 | [-0.001, 0.001]  |
| DTISAVE  | 貯金保険・財産運用の相談に応じてくれる一般人があり                | -0.490 *   | 0.280 | -1.750 | 0.080 | [-1.038, 0.059]  |
| DTISICK  | 病気・介護の相談可能                               | 0.000      | 0.000 | -1.360 | 0.172 | [0.000, 0.000]   |
| DTOSI    | 都市立地                                     | 0.634      | 0.625 | 1.020  | 0.310 | [-0.590, 1.858]  |
| DYAMA    | 山間立地                                     | -0.249     | 0.493 | -0.500 | 0.614 | [-1.216, 0.718]  |
| SIZEN    | 誇らしい自然あり                                 | 0.136      | 0.116 | 1.170  | 0.242 | [0.092, 0.364]   |
| DENTOU   | 伝統大事な地域（わらび+ホテル）喜び分かち合える地域（皆が主役）         | -0.003     | 0.003 | -1.040 | 0.300 | [-0.008, 0.002]  |
| HIRAKARE | 開かれた地域                                   | -0.001     | 0.001 | -1.420 | 0.155 | [-0.003, 0.000]  |
| DOHOKU   | 東北地方ダミー                                  | -0.257     | 0.209 | -1.230 | 0.219 | [-0.666, 0.152]  |
| DKANTOKO | 関東甲信越ダミー                                 | -0.257 *   | 0.148 | -1.730 | 0.083 | [-0.547, 0.033]  |
| DKYUSYU  | 九州地方ダミー                                  | -0.257 *   | 0.156 | -1.650 | 0.100 | [-0.562, 0.049]  |
| YA11     | 2011年ダミー                                 | -0.008     | 0.134 | -0.060 | 0.954 | [-0.270, 0.254]  |
| YA12     | 2012年ダミー                                 | -1.178 *** | 0.397 | -2.960 | 0.003 | [-1.956, -0.399] |

\*は有意水準；\*：10%水準，\*\*：5%水準，\*\*\*：1%水準。（第2、3表においても同じ）

情報感応度も高いのであろう。震災に見られるような自然災害を意識しないのは、幸運な地域でもある。なお、農協職員への高評価は特記されてよい。東北地方が豊かになったか否か不明な結果となるのは、致し方ないものとする。

このことは、各選択肢への確率の変化をみるとより明確となる。次頁第2表は、各説明変数の、被説明変数の選択肢の値の変化に対する平均値周りでの確率を示したものである。なお、すでに述べたとおり、被説明変数は、質問紙の「1. そう思う 2. ややそう思う 3. あまりそう思わない 4. そう思わない 5. わからない」の5段階を、1・2を統合して1、4・5を統合して3、5を2なる3段階のコードに振りなおし、さらに、推計にはNLOGIT5.0を用いる都合上、コード1・2・3を順に0・1・2に再変換している。

「豊かになった」から「わからない」に選択の意向が変化する過程において（[Partial effects on Prob [Y=0 1] at means]）、「農協職員が頼りになる相談相手」なる変数の符号が負に変化している。これは、「豊かになった」（[Partial effects on Prob [Y=0 0] at means]）ことを選択する確率の変化の表において、この説明変数の符号が正であるのとは対比的である。何かと批判の多い農協組織ではあるものの、このような意向が表れていることを正に評価してよい。

また、「豊かになった」から「わからない」に選択の意向が変化する過程において、都市近郊部に立地する農家も正の符号で有意となる。条件が良いと考えられる立地であって

も、都市近郊ゆえの事情が反映するのであろうか。

さらに、「豊かになった」から「豊かにならなかった」に選択の意向が変化する過程において（[Partial effects on Prob [Y=0 2] at means]）、世帯主年齢が高く、後継者が不在で、経営規模が大きく、売掛金リスクなどを意識せず、農協職員への評価が低い場合という変数が、統計的に有意な結果となっている。後継者のいない大規模稲作経営層の不満が表れているのではないか。

このような検討を、第3節3）推計モデル（1）被説明変数で掲げた残りの5つの被説明変数（b）～（f）に関する推計結果についても行い、全体を第3表（P. 36）にまとめた（註8）。

## 2）「5年後は豊かになる見込み」となることに影響する要因

第3表の「5年後は豊かになる見込み」欄は、これを3段階で評価する変数を被説明変数、世帯状況や農業経営状況・立地地域状況を説明変数とする、Ordered Probit Modelの推計結果である。5年後には豊かになるという潜在的な意向が稲作農家にあるものと仮定している。10%水準以上で有意に0ではないと検定された係数の説明変数を中心に指摘する。被説明変数が豊かさに関して逆順であることに注意して符号を解釈する。

推計結果によれば、家族人数が少ないほど、世帯主年齢が若いほど、後継者がいるほど、兼業収入割合が高いほど、田の経営規模が小さいほど、農協職員が頼りになる相談相手であるほど、病気・介護の相談に応じてくれる人がいるほど、誇らしい自然はないほど

第2表 「5年前と比べて豊かになった」ことへの影響要因の確率変化

| -----[Partial effects on Prob[Y=0 1] at means]----- |                                          |             |        |        |       |                         |
|-----------------------------------------------------|------------------------------------------|-------------|--------|--------|-------|-------------------------|
| 説明変数名                                               | 意味                                       | 係数          | 標準誤差   | 漸近的Z値  | P値    | 信頼区間                    |
| HHOLD                                               | 世帯員数                                     | -0.013      | -0.078 | -1.080 | 0.281 | [-0.037, 0.011]         |
| SAGE                                                | 世帯主年齢                                    | -0.004 **   | -0.354 | -2.570 | 0.010 | [-0.007, -0.001]        |
| *DKOUKEI                                            | 後継者有無ダミー                                 | 0.095 **    | 0.123  | 2.200  | 0.028 | [0.010, 0.179]          |
| KENGYSYU                                            | 兼業収入割合(そのほかの収入+農外収入)                     | .91940D-04  | 0.002  | 1.050  | 0.292 | [-.78917D-04, .26280D-] |
| TAKIB01                                             | 田の経営規模(自分が地域農業を担う+雇用労働の拡大+将来の規模拡大と正の相関)  | 0.000 ***   | -0.001 | -2.700 | 0.007 | [-0.001, 0.000]         |
| HAKIB01                                             | 畑の経営規模                                   | 0.017       | 0.044  | 0.430  | 0.669 | [-0.059, 0.092]         |
| DSUUK0                                              | 将来は、自分以外の数戸の農家が地域農業を担う                   | -.39060D-04 | -0.004 | -0.940 | 0.346 | [-.12026D-03, .42142D-] |
| *DRSURIK                                            | 売掛金回収リスクを感知(情報リスク・法律のリスクなどと広範に正の相関)      | 0.069 *     | 0.089  | 1.690  | 0.092 | [-0.011, 0.149]         |
| *DRSKSIZ                                            | 自然災害を感知                                  | -0.230 ***  | -0.300 | -2.650 | 0.008 | [-0.401, -0.060]        |
| JAPWARI                                             | 農協共済掛金シェア                                | -0.016      | -0.042 | -0.410 | 0.685 | [-0.092, 0.060]         |
| SEHPWARI                                            | 生保保険料シェア                                 | -0.001      | -0.002 | -0.400 | 0.693 | [-0.004, 0.003]         |
| DSOUJA                                              | 農協職員が頼りになる相談相手                           | 0.000 ***   | 0.113  | 3.480  | 0.001 | [0.000, 0.000]          |
| DTIMATO                                             | 地域をまとめる組織・団体・人がいるダミー(地域で頼りになる人がいるのと正の相関) | .97010D-04  | 0.006  | 1.070  | 0.287 | [-.81393D-04, .27541D-] |
| *DTISAVE                                            | 貯金保険・財産運用の相談に応じてくれる一般人が<br>あり            | 0.132 **    | 0.172  | 2.130  | 0.034 | [0.010, 0.254]          |
| DTISICK                                             | 病気・介護の相談可能                               | .56894D-04  | 0.006  | 1.370  | 0.169 | [-.24210D-04, .13800D-] |
| *DTOSI                                              | 都市立地                                     | -0.234      | -0.304 | -0.940 | 0.345 | [-0.720, 0.252]         |
| *DYAMA                                              | 山間立地                                     | 0.073       | 0.095  | 0.560  | 0.577 | [-0.184, 0.330]         |
| *SIZEN                                              | 誇らしい自然あり                                 | -0.044      | -0.057 | -1.170 | 0.244 | [-0.118, 0.030]         |
| DENTOU                                              | 伝統大事な地域(わらび+ホテル) 喜び分かち合える<br>地域(皆が主役)    | 0.001       | 0.003  | 1.030  | 0.302 | [-0.001, 0.003]         |
| HIRAKARE                                            | 開かれた地域                                   | 0.000       | 0.001  | 1.420  | 0.155 | [0.000, 0.001]          |
| *DTHOKU                                             | 東北地方ダミー                                  | 0.077       | 0.100  | 1.320  | 0.186 | [-0.037, 0.191]         |
| *DKANTOK                                            | 関東甲信越ダミー                                 | 0.078 *     | 0.101  | 1.840  | 0.066 | [-0.005, 0.161]         |
| *DKYUSYU                                            | 九州地方ダミー                                  | 0.078 *     | 0.101  | 1.740  | 0.082 | [-0.010, 0.165]         |
| *YA11                                               | 2011年ダミー                                 | 0.003       | 0.003  | 0.060  | 0.953 | [-0.081, 0.086]         |
| *YA12                                               | 2012年ダミー                                 | 0.443 ***   | 0.576  | 3.220  | 0.001 | [0.174, 0.713]          |

| -----[Partial effects on Prob[Y=0 1] at means]----- |                                         |                |        |        |       |                         |
|-----------------------------------------------------|-----------------------------------------|----------------|--------|--------|-------|-------------------------|
| 説明変数名                                               | 意味                                      | 係数             | 標準誤差   | 漸近的Z値  | P値    | 信頼区間                    |
| HHOLD                                               | 世帯員数                                    | 0.002          | 0.155  | 1.080  | 0.279 | [-0.002, 0.006]         |
| SAGE                                                | 世帯主年齢                                   | 0.001 **       | 0.703  | 2.550  | 0.011 | [0.000, 0.001]          |
| *DKOUKEI                                            | 後継者有無ダミー                                | -0.016 **      | -0.240 | -2.220 | 0.026 | [-0.030, -0.002]        |
| KENGYSYU                                            | 兼業収入割合(そのほかの収入+農外収入)                    | -.15943D-04    | -0.004 | -1.060 | 0.290 | [-.45465D-04, .13580D-] |
| TAKIB01                                             | 田の経営規模(自分が地域農業を担う+雇用労働の拡大+将来の規模拡大と正の相関) | .83981D-04 *** | 0.003  | 2.580  | 0.010 | [.20136D-04, .14783D-]  |
| HAKIB01                                             | 畑の経営規模                                  | -0.003         | -0.088 | -0.430 | 0.668 | [-0.016, 0.010]         |
| DSUUK0                                              | 将来は、自分以外の数戸の農家が地域農業を担う                  | .67731D-05     | 0.007  | 0.980  | 0.325 | [-.67161D-05, .20262D-] |
| *DRSURIK                                            | 売掛金回収リスクを感知(情報リスク・法律のリスクなどと広範に正の相関)     | -0.013         | -0.187 | -1.640 | 0.102 | [-0.028, 0.002]         |
| *DRSKSIZ                                            | 自然災害を感知                                 | 0.027 ***      | 0.407  | 3.780  | 0.000 | [0.013, 0.041]          |
| JAPWARI                                             | 農協共済掛金シェア                               | 0.003          | 0.084  | 0.410  | 0.684 | [-0.010, 0.016]         |
| SEHPWARI                                            | 生保保険料シェア                                | 0.000          | 0.004  | 0.400  | 0.692 | [0.000, 0.001]          |

|          |                                         |                 |        |        |       |                          |
|----------|-----------------------------------------|-----------------|--------|--------|-------|--------------------------|
| DSOUJA   | 農協職員が頼りになる相談相手                          | -.23292D-04 *** | -0.225 | -3.090 | 0.002 | [-.38053D-04 , -.85308D] |
| DTIMATO  | 地域をまとめる組織・団体・人がいるダミー（地域で頼りになる人がいるのと正の相関 | -.16822D-04     | -0.012 | -1.050 | 0.295 | [-.48307D-04 , .14663D-] |
| *DTISAVE | 貯金保険・財産運用の相談に応じてくれる一般人が<br>あり           | -0.028 *        | -0.422 | -1.810 | 0.070 | [-0.059 , 0.002]         |
| DTISICK  | 病気・介護の相談可能                              | -.98655D-05     | -0.013 | -1.350 | 0.178 | [-.24229D-04 , .44978D-] |
| *DTOSI   | 都市立地                                    | 0.025 **        | 0.373  | 2.190  | 0.028 | [0.003 , 0.047]          |
| *DYAMA   | 山間立地                                    | -0.014          | -0.215 | -0.500 | 0.619 | [-0.071 , 0.042]         |
| *SIZEN   | 誇らしい自然あり                                | 0.008           | 0.112  | 1.170  | 0.241 | [0.005 , 0.020]          |
| DENTOU   | 伝統大事な地域（わらび+ホテル）喜び分かち合える<br>地域（皆が主役）    | 0.000           | -0.005 | -1.040 | 0.300 | [0.000 , 0.000]          |
| HIRAKARE | 開かれた地域                                  | -.64381D-04     | -0.003 | -1.410 | 0.158 | [-.15378D-03 , .25020D-] |
| *DTHOKU  | 東北地方ダミー                                 | -0.015          | -0.221 | -1.210 | 0.226 | [-0.039 , 0.009]         |
| *DKANTOK | 関東甲信越ダミー                                | -0.015 *        | -0.220 | -1.700 | 0.088 | [-0.032 , 0.002]         |
| *DKYUSYU | 九州地方ダミー                                 | -0.015          | -0.220 | -1.620 | 0.105 | [-0.033 , 0.003]         |
| *YA11    | 2011年ダミー                                | 0.000           | -0.007 | -0.060 | 0.954 | [-0.015 , 0.014]         |
| *YA12    | 2012年ダミー                                | -0.018          | -0.267 | -1.150 | 0.251 | [-0.048 , 0.013]         |

| -----[Partial effects on Prob[Y=0 2] at means]----- |                                         |             |        |        |       |                          |
|-----------------------------------------------------|-----------------------------------------|-------------|--------|--------|-------|--------------------------|
| 説明変数名                                               | 意味                                      | 係数          | 標準誤差   | 漸近的Z値  | P値    | 信頼区間                     |
| HHOLD                                               | 世帯員数                                    | 0.011       | 0.302  | 1.070  | 0.283 | [-0.009 , 0.030]         |
| SAGE                                                | 世帯主年齢                                   | 0.003 **    | 1.370  | 2.530  | 0.011 | [0.001 , 0.006]          |
| *DKOUKEI                                            | 後継者有無ダミー                                | -0.079 **   | -0.480 | -2.170 | 0.030 | [-0.150 , -0.008]        |
| KENGYSYU                                            | 兼業収入割合（そのほかの収入+農外収入）                    | -.75997D-04 | -0.007 | -1.050 | 0.293 | [-.21773D-03 , .65739D-] |
| TAKIB01                                             | 田の経営規模（自分が地域農業を担う+雇用労働の拡大+将来の規模拡大と正の相関  | 0.000 ***   | 0.005  | 2.680  | 0.007 | [0.000 , 0.001]          |
| HAKIB01                                             | 畑の経営規模                                  | -0.014      | -0.171 | -0.430 | 0.669 | [-0.077 , 0.049]         |
| DSUUKO                                              | 将来は、自分以外の数戸の農家が地域農業を担う                  | .32287D-04  | 0.015  | 0.930  | 0.351 | [-.35563D-04 , .10014D-] |
| *DRSURIK                                            | 売掛金回収リスクを感知（情報リスク・法律のリスク<br>などと広範に正の相関  | -0.056 *    | -0.342 | -1.690 | 0.092 | [-0.121 , 0.009]         |
| *DRSKSIZ                                            | 自然災害を感知                                 | 0.203 **    | 1.238  | 2.470  | 0.013 | [0.042 , 0.364]          |
| JAPWARI                                             | 農協共済掛金シェア                               | 0.013       | 0.164  | 0.410  | 0.685 | [-0.050 , 0.076]         |
| SEHPWARI                                            | 生保保険料シェア                                | 0.001       | 0.007  | 0.400  | 0.693 | [-0.002 , 0.004]         |
| DSOUJA                                              | 農協職員が頼りになる相談相手                          | 0.000 ***   | -0.438 | -3.470 | 0.001 | [0.000 , 0.000]          |
| DTIMATO                                             | 地域をまとめる組織・団体・人がいるダミー（地域で頼りになる人がいるのと正の相関 | -.80188D-04 | -0.023 | -1.070 | 0.286 | [-.22753D-03 , .67155D-] |
| *DTISAVE                                            | 貯金保険・財産運用の相談に応じてくれる一般人が<br>あり           | -0.104 **   | -0.633 | -2.200 | 0.028 | [-0.196 , -0.011]        |
| DTISICK                                             | 病気・介護の相談可能                              | -.47028D-04 | -0.025 | -1.370 | 0.169 | [-.11409D-03 , .20035D-] |
| *DTOSI                                              | 都市立地                                    | 0.209       | 1.275  | 0.880  | 0.380 | [-0.257 , 0.675]         |
| *DYAMA                                              | 山間立地                                    | -0.059      | -0.358 | -0.580 | 0.565 | [-0.259 , 0.141]         |
| *SIZEN                                              | 誇らしい自然あり                                | 0.037       | 0.223  | 1.160  | 0.246 | [-0.025 , 0.098]         |
| DENTOU                                              | 伝統大事な地域（わらび+ホテル）喜び分かち合える<br>地域（皆が主役）    | -0.001      | -0.010 | -1.030 | 0.304 | [-0.002 , 0.001]         |
| HIRAKARE                                            | 開かれた地域                                  | 0.000       | -0.005 | -1.420 | 0.157 | [-0.001 , 0.000]         |
| *DTHOKU                                             | 東北地方ダミー                                 | -0.062      | -0.378 | -1.350 | 0.178 | [-0.152 , 0.028]         |
| *DKANTOK                                            | 関東甲信越ダミー                                | -0.063 *    | -0.386 | -1.860 | 0.063 | [-0.130 , 0.003]         |
| *DKYUSYU                                            | 九州地方ダミー                                 | -0.063 *    | -0.384 | -1.760 | 0.079 | [-0.133 , 0.007]         |
| *YA11                                               | 2011年ダミー                                | -0.002      | -0.013 | -0.060 | 0.953 | [-0.071 , 0.067]         |
| *YA12                                               | 2012年ダミー                                | -0.425 ***  | -2.593 | -2.850 | 0.004 | [-0.718 , -0.132]        |

第3表 推計結果のまとめ：説明変数の係数一覧表

|                                          | 5年前と比べて豊かになった | 5年後は豊かになる見込み | 5年前・5年後も豊か  | 5年前からは豊かになっていないが、5年後は豊か | 5年前からは豊かになっているが、5年後は豊かではない | 5年前から5年後も、豊かではない |
|------------------------------------------|---------------|--------------|-------------|-------------------------|----------------------------|------------------|
|                                          | (逆順)          | (逆順)         |             |                         |                            |                  |
| 世帯員数                                     | 0.0403        | 0.1439 ***   | -0.0940 **  | 0.2414 ***              | 0.0121                     | 0.0313           |
| 世帯主年齢                                    | 0.0130 ***    | 0.0148 **    | -0.0168 *** | 0.0119                  | 0.0022                     | 0.0092           |
| 後継者有無ダミー                                 | -0.2930 **    | -0.5002 ***  | 0.5597 ***  | -0.9228 ***             | -0.2187                    | -0.0381          |
| 兼業収入割合(そのほかの収入+農外収入)                     | -0.0003       | -0.0011 ***  | 0.0002      | -0.0004                 | 0.0003                     | -0.0013 ***      |
| 田の経営規模(自分が地域農業を担う+雇用労働の拡大+将来の規模拡大と正の相関)  | 0.0015 ***    | 0.0038 ***   | -0.0025 *** | 0.0049 ***              | 0.0012                     | 0.0031 ***       |
| 畑の経営規模                                   | -0.0515       | -0.2291      | 0.1048      | -0.2498                 | 0.0834                     | -0.0504          |
| 将来は、自分以外の数戸の農家が地域農業を担う                   | 0.0001        | 0.0009 ***   | -0.0004 *** | 0.0016 ***              | -0.0003 **                 | 0.0006 ***       |
| 売掛金回収リスクを感知(情報リスク・法律のリスクなどと広範に正の相関)      | -0.2208 *     | 0.1530       | 0.2521 *    | -0.2484                 | -0.3302 *                  | 0.1467           |
| 自然災害を感知                                  | 0.6371 ***    | -18.1489     | -0.5428 **  | -13.2063                | 1.0624 ***                 | -13.6509         |
| 農協共済掛金シェア                                | 0.0489        | 0.2256       | -0.1012     | 0.1940                  | -0.0854                    | 0.0488           |
| 生保保険料シェア                                 | 0.0022        | 0.0019       | -0.0024     | 0.0541                  | 0.0022                     | 0.0008           |
| 農協職員が頼りになる相談相手                           | -0.0004 ***   | -0.0008 ***  | 0.0005 ***  | -0.0006                 | -0.0004 **                 | -0.0007 **       |
| 地域をまとめる組織・団体・人がいるダミー(地域で頼りになる人がいるのと正の相関) | -0.0003       | 0.0002       | 0.0004      | -0.0003                 | -0.0010 ***                | 0.0021           |
| 貯金保険・財産運用の相談に応じてくれる一般人があり                | -0.4896 *     | -44.1064     | 0.7011 **   | -12.8688                | 0.1757                     | -18.1800         |
| 病気・介護の相談可能                               | -0.0002       | -0.0006 ***  | 0.0004 ***  | -0.0009 ***             | 0.0002                     | -0.0006 ***      |
| 都市立地                                     | 0.6340        | -22.5914     | -0.4150     | -12.1224                | 0.6355                     | -12.7916         |
| 山間立地                                     | -0.2491       | -13.6935     | -0.1193     | -13.1100                | -13.2278                   | -13.1333         |
| 誇らしい自然あり                                 | 0.1361        | 0.2570 *     | -0.1006     | 0.0837                  | -0.0366                    | 0.3841 **        |
| 伝統大事な地域(わらび+ホタル)喜び分かち合える地域(皆が主役)         | -0.0028       | -0.0036      | 0.0024      | 0.0011                  | 0.0810                     | -0.0039          |
| 開かれた地域                                   | -0.0012       | -0.0043      | 0.0009      | 0.0004                  | 0.0970                     | -0.0044          |
| 東北地方ダミー                                  | -0.2569       | 0.7479 ***   | 0.1248      | 1.0740 ***              | -0.6833 **                 | 0.9185 ***       |
| 関東甲信越ダミー                                 | -0.2570 *     | -0.3007      | 0.1961      | 0.4288                  | -0.0640                    | -0.4303          |
| 九州地方ダミー                                  | -0.2567 *     | 0.0802       | 0.3381 **   | -0.0677                 | -0.6881 ***                | 0.4906 **        |
| 2011年ダミー                                 | -0.0078       | -0.0640      | 0.0277      | -0.0976                 | -0.0086                    | -0.0374          |
| 2012年ダミー                                 | -1.1777 ***   | -2.3659 ***  | 1.3622 ***  | -3.7360 ***             | -1.3362 **                 | -2.5544 ***      |

ど、東北地方ではないほどに、今後5年間で豊かになる見通しであるという意向が強まる。

「5年前と比べて豊かになった」ことに影響する要因とは、世帯主年齢が若い、後継者がいる、田の経営規模が小さい、農協職員が頼りになる相談相手である、といったものである。一方、家族人数の少なさ・兼業収入割合の高さが今後の豊かさにプラスに影響するのは、大家族による家族経営ではなく、安定的な兼業収入を得ながらの経営のほうで将来の見通しが明るいことを示唆する。大規模大家族経営の稲作は、ネガティブな評価となったのであろう。また、いわゆる豊かな自然地帯の農業が、地域資源としてどこまで生かせるか困惑している状況を示唆している。東北地方は、震災の影響がまだ収束していないことから、このような結果になった可能性もある。無理もない。

### 3) 「5年前・5年後も豊か」となることに影響する要因

第3表の「5年前・5年後も豊か」欄は、「5年前からも豊かに変わり、・5年後も豊かになる見込み」かどうかを2値データで表したものを被説明変数、世帯状況や農業経営状況・立地地域状況を説明変数とする、Binomial Probit Modelの推計結果である。5年前から豊かになり、5年後には豊かになるという潜在的な意向が稲作農家にあるものと仮定している。10%水準以上で有意に0ではないと検定された係数の説明変数を中心に指摘する。

推計結果によれば、家族人数が少ないほど、世帯主年齢が若いほど、後継者がいるほど、田の経営規模が小さいほど、「将来は、

自分以外の数戸の農家が地域農業を担う」と考えないほど、売掛金回収リスクを感知するほど、自然災害を感知しないほど、農協職員が頼りになる相談相手であるほど、貯金・保険・病気・介護の相談に応じてくれる人がいるほど、九州地方であるほどに、「5年前からも豊かに変わり、・5年後も豊かになる見込み」であるという意向が強まる。

当たり前のことかもしれないが、若く後継者がいるのは豊かさの感覚を高める必須の条件なのであろう。自分が地域農業を担うか否かは別として、自分の農業を邁進するほうが、豊かさを実感しやすいのかもしれない。ありとあらゆるブランドは小さくなるほど価値がある。農産物でも食材でもそうである。国よりは県、県よりは市町村、市町村よりは特定の地域、特定の地域の中の特定の産地、特定の産地の中の特定の生産者、特定の生産者の中の特定の畑のほうが、ブランド価値は高くなる。量が少ないほどに、高品質の維持と希少性の向上が見込まれるからである。従来、水田農業では、水利組合の運営などいかに地域でうまく農業を行っていくかが重要な条件であり、また、その中のリーダーは痛々しいほどに地域のメンバーに気を使って共同体を運営してきた。ところが本アンケートの分析をみると、こうした歴史とは異なる、経営としてのフリーハンドを一定の範囲で持つ稲作農家が生まれてきているのかもしれない。もちろん、彼らが地域農業から遊離しているわけではない。その証に、農協職員への高評価があることを指摘しておく。

また、5年後は豊かになる見込みであることに影響を及ぼすものを推計したOrdered

Probit Modelとは、モデルの形態が異なるので直接の比較はできないものの、「兼業収入割合が高いほど」将来は豊かになるという結果が、このモデルでは明確ではない。農業経営を中心に豊かさを作ってきた経過があり、これに自信を持てるから、将来への豊かさについても兼業収入をあてにしないのではないかと、ということが示唆されている。

#### 4) 「5年前からは豊かになっていないが、5年後は豊か」となることに影響する要因

第3表の「5年前からは豊かになっていないが、5年後は豊か」欄は、その見込みがあるかどうかを2値データで表したものを被説明変数、世帯状況や農業経営状況・立地地域状況を説明変数とする、Binomial Probit Modelの推計結果である。5年前からは豊かになっていないが、5年後は豊かとなる見込みを表す潜在的な意向が稲作農家にあるものと仮定している。10%水準以上で有意に0ではないと検定された係数の説明変数を中心に指摘する。

推計結果によれば、家族人数が多いほど、後継者がいないほど、田の経営規模が大きいほど、「将来は、自分以外の数戸の農家が地域農業を担う」と考えるほど、病気・介護の相談に応じてくれる人がいないほど、東北地方であるほどに、「5年前からは豊かになっていないが、5年後は豊かとなる見込み」であるという意向が強まる。

家族人数・後継者の有無・田の経営規模・「将来は、自分以外の数戸の農家が地域農業を担う」か否か・「病気・介護の相談に応じてくれる人」の有無、いずれも「5年前からも豊かに変わり、5年後も豊かになる見込

み」かどうかで推計した結果と、ともに統計的に有意な結果を得ており、すべてその符号は逆である。その解釈を述べる。後継者のいない大家族の大規模稲作経営体とは、現在は一定の規模で稲作を行っており、その意味で地域農業の担い手の一人ではないかと推測できる。ところがこのような状況で、「将来は、自分以外の数戸の農家が地域農業を担う」と考えていることは、将来は稲作からの撤退を示しているのではないかと推測できる。しかも震災の被害がおびただしかった東北地方である。過去5年、稲作の大規模経営を行ってきたから豊かにならなかったが、これをやめることによって向こう5年後は豊かになるという、痛烈な結果を表しているのではないだろうか。また、将来はやめると意思決定すること、すなわち自分はもう地域農業の担い手にならない、という意思決定が豊かさ観を増進させるのは、責任や重圧感が小さい方が幸せであることを示唆する研究(筒井・大竹・池田(2005))に通じるものと言っても良いのではないかと推測できる。

推計結果の表は掲げなかったが、説明変数の確率の変化について、都市近郊・山間地の立地を表すダミー変数が、ともにその符号が負で有意な結果となっている。したがって中間地の立地ほど、この意向が強まることを示唆している。

#### 5) 「5年前からは豊かになっているが、5年後は豊かにはならない見込み」となることに影響する要因

第3表の「5年前からは豊かになっているが、5年後は豊かではない」欄は、その見込みかどうかを2値データで表したものを被説明変数、世帯状況や農業経営状況・立地地域

状況を説明変数とする、Binomial Probit Modelの推計結果である。5年前からは豊かになっているが、5年後は豊かにはならない見込みを表す潜在的な意向が稲作農家にあるものと仮定している。10%水準以上で有意に0ではないと検定された係数の説明変数を中心に指摘する。

推計結果によれば、「将来は、自分以外の数戸の農家が地域農業を担う」と考えないほど、売掛金回収リスクを感知しないほど、自然災害を感知するほど、農協職員が頼りになる相談相手ではないほど、地域をまとめる組織・団体・人がいないほど、東北地方・九州地方ではないほどに、「5年前からは豊かになっているが、5年後は豊かにはならない見込み」であるという意向が強まる。

自己の農業経営の状況は、どのような影響を及ぼしているのか明確ではない。豊かさの変化の転換をもたらすのは、地域の要素が強いことが示唆されている。

#### 6)「5年前からも、5年後も、豊かではない」

##### となることに影響する要因

第3表の「5年前からも、5年後も、豊かではない」欄は、その見込みを2値データで表したものを被説明変数、世帯状況や農業経営状況・立地地域状況を説明変数とする、Binomial Probit Modelの推計結果である。5年前からも5年後も豊かではないという潜在的な意向が稲作農家にあるものと仮定している。10%水準以上で有意に0ではないと検定された係数の説明変数を中心に指摘する。

推計結果によれば、兼業収入割合が低いほど、田の経営規模が大きいほど、「将来は、自分以外の数戸の農家が地域農業を担う」と

考えるほど、農協職員が頼りになる相談相手ではないほど、病気・介護の相談に応じてくれる人がいないほど、誇らしい自然があるほど、東北地方・九州地方であるほどに、「5年前からも、5年後も、豊かではない」という意向が強まる。

稲作専門の度合いが高まるほど、地域にしかるべき中間組織が存在せず、健康関連の相談もできないと、自分自身が地域農業の担い手になるという選択よりは、自分以外の誰か数戸に委任する意向が強まるのであろう。この推計で示唆されるのは、単に、専門度合いが高い稲作農家の場合には、農協などの支援組織の必要性が増しているということであろうか。いずれにしても、豊かさを過去も未来も実感できなければ、現状の維持もおぼつかず、地域農業の担い手にも立候補しないであろう。東北地方でその傾向が顕著に見られるのは、指摘するまでもなく、震災後の遅々として進まない復旧という事由が背景にあるからであろう。

なお、九州地方は、「5年前からも豊かになり、5年後も豊かになる見込み」でも統計的に有意な結果を得ている。農家の2極化が明確に表れているものと考えられる。

以上の6つのモデルについて、比較してわかる通り、「後継者有無ダミー」は豊かさ観を高めるのに決定的に重要である。「経営規模」との関連は分かれる。ただし、廃業するのなら、大規模経営を頑張ってきた人も豊かになると思うのは特記されるべきであろう。適正規模がある模様で、規模の小さいほうが豊かになる経営の道も確保されていると考えられる。

自分以外の者が地域農業を担う、すなわち地域農業をいわば放り出してしまうような場合の豊かさ観への影響は分かれた。「後継者がおり」「自ら地域農業を守る」場合には5年後の豊かさに結びつくモデルがある一方、廃業の可能性がある場合にも同様に豊かさ観を高めると推定されるモデルもある。営農は継続するものの「東北地方」「専業度が高い」場合には、豊かさ観を低めるものもある。

売掛金リスク感応度など高い場合には、おそらく前向きな経営を心掛けていると考えられる。これは豊かさ観に明確に正に影響している。

農協職員の機能への評価の豊かさ観への影響は、5つのモデルで統計的に有意な結果が得られている。重要である。この点、農協系統組織は誇ってよい。貯金の相談も同様である。もちろん、健康相談も影響がある。

なお、誇らしい自然はあっても豊かさ観を高めるのに結びつかないのは、残念であった。東北地方に居住するか否かの影響は評価が分かれた。過去未来ともに豊かさ観にネガティブなものもあれば、過去にはネガティブでもこれからは明るいところもある。復興の進捗状況に差があるからであろうか。

## 5 今後の課題

以上、豊かさとその変化に影響を及ぼす要因について、いくつかの推計結果を紹介しその解釈を述べた。経営体として明確な志向を持っている集団が稲作でも登場していること、しかし地域の中で中間的な組織がどれだけその機能を発揮しているかが豊かさ観に大きな影響を与えていることは特記すべきであ

る。

一方、共済事業や保険事業の加入状況では明確なものは得られなかった。さらに、経営体の特質にもさまざまなものがあり、もはや経営規模のみで議論できる領域が限られてきていることも、本推計で明らかとなっている。今回推計に用いたデータでも、田の経営規模にはかなりの格差があるので、今後は、経営規模別の非線形な関連をも射程に入れて検討することとしたい。

## 6 中間組織の意義の再検討

豊かさ観に中間組織の機能発揮が有効であるという推計結果を踏まえ、あらためて公共政策の方向とこれに関連した中間組織の意義について検討してみたい。中間組織が市場経済でカバーできない分野の補完を果たしうるにもかかわらず、政策によってその機能の発揮が限定もしくは誘導される可能性に注意を喚起するためである。

### 1) 政策による市場創設という方向性と農業政策

アラビア石油の権益を維持する条件として産油国から莫大な金額の支援を突き付けられた経産省は、その権益の延長を見切る際に、エネルギーは市場調達時代、というキャンペーンを張った。必需性の極めて高い原油であってもその市場があるなら、そこから調達すればよい、あえて産油国との相対取引に依存することはない、という論理である。

この論理では、市場が成立しそこで売ってくれる人がいる場合は良いが、誰も売ってくれないときにどうするのかという議論が決定的に欠けている。すなわち市場が成立し得な

い状況を想定した場合の持続可能性の議論が抜けている。すぐ後に述べるように、ミニマムの必要量がある財であっても、そのミニマムのレベルを加味した経済分析が行われていないからである。

ところが今の政策の基本的な方向は、先進国を中心に、市場化とそのための制度設計をどれだけ関連業界の利益に資するように行うか、である。例えば、飲料容器などの回収・分別・リサイクルについて生産者に責任を負わせる（いわゆる拡大生産者責任）一方で、その活動を収益事業とする制度を設計したドイツ環境政策（喜多川（2013））は、その標本のような事例である。民生品の廃棄物処理のように、著しい外部性によって必要な量のサービスが私的部門では不十分な量しか供給されない問題は、公共部門が登場して私的部門による市場の失敗をカバーする。これが従来の標準的なミクロ経済学の教科書的対応であった（奥野（2008）など）。ところが、ドイツの拡大生産者責任に基づく政策は、汚染源の発生に課税し、補助金を出してリサイクル活動を促進させる代わりに、回収・リサイクル市場を作った。すなわち、ピグー補助金の代わりに、産業界が回収・リサイクルによって利潤を上げることができるようし、その利潤で廃棄物の処理を行わせた。公害対策が産業育成政策に転化したのである。その後、拡大生産者責任の理念がOECDの推奨政策とされ、各国の環境政策の新たな参照点とされた結果、この理念によって誕生した独仏のリサイクル企業がEU域内はもちろん新興国・中進国にも進出し、世界的なメジャー企業へと成長した。この例にみられるように、

市場がない、もしくはその成立が危ぶまれるのなら、政策当局は、その市場を作る条件を整えるほうに注力すべきという方向に転換した。「ない」ことを懸念するより関連業界の利益となる誘因を作り（市場創設）「ある」ものとするほうが建設的であるという姿勢である。その背景には、様々な批判がありながらも、市場経済が人の作る経済社会を豊かにしてきたという歴史認識がある。市場経済への信念なくして経済発展はありえない。市場を過度に信奉する主張は、2008年のリーマンショックで一時下火になったものの、再び復活している。このように、市場化の意義を積極的肯定的に考える論調と、外部性などの市場化による内部化という方向が主流になったこと、ふたつの流れともに偶然ではないと考える。

二つの点で懸念を述べる。

一つは政策論の理論的基礎に関するものである。食料はもちろん、エネルギーでも、一定の水準で絶対的な必需品である財の場合、そのミニマムの必要量がある状況の経済分析は、ほとんどの経済学では捨象されている。むしろ経済学は選択の合理性を論ずるがゆえに、選択の余地のない状況はそもそも取り扱わない。かつては辻村（1977）のようにこの点を理論的に明示する研究があった。しかし今の政策論ではほとんど議論されない。例えば、神取（2013）に見られるように、TPPのような貿易自由化による農家の不利益は、これを補償する補助金の供与によってその効用を維持する問題として議論され、消費者の選択の自由をいかに守るかが重要という問題に転化されている。これは、食料のように、高

度に選択的な財であると同時に絶対的な必需品としての水準がある財の場合、前者の特質にのみ適用できる議論であって、後者の特質についてはミスリーディングではないか。例えば40%というカロリーベースの自給率を維持し、上昇させようという政策は、一人一日当たり2000キロカロリーという生存のためのぎりぎりの水準の食料供給力を維持するのが目的である。生産者の利益確保を目的としたものではない。仮に生産者に利益があったとしても、それは反射的なものである。ところがその絶対水準の議論は市場化の主張の前にかき消され、むしろ利害関係者の利益確保という隠れた意図があると主張される。これでは、この政策目標の本来の意図とその周知も、かえって損なわれる状況となろう。

もう一つは、公共部門による私的領域への関与が、本来の政策の目的を超えて効率化のために利用されるのではないかという懸念である。地域の農業振興に関していえば、人・農地プランの策定に代表されるように、地域の合意形成を政策発動の要件とする近年の農業政策は、ボトムアップとコミュニティの力の結集を下敷きに行っている。日本の土地利用型農業生産は、市場経済との激しい資源調達構造を基本とする上層とこれを支えるコミュニティ活動の依拠する基層という2層構造からなる（生源寺2010）。人・農地プランなどの直接支払政策が基層の力を基礎のひとつに行っているという点で、政策の展開にあたって、政策当局と中間団体との間で政策が決まるのではなく、政策をめぐる中間団体と農業の担い手の間の直接の対話も生まれている。ここに、最近その重要性がさかんに指摘

されている人と人とのつながりなどの関係性の議論を重ね合わせると、どうなるであろうか。この点を考えてみたい。

まず、農政におけるソーシャルキャピタル論の導入もこの関係性の議論を意識したものと考えられることを指摘しておこう。ソーシャルキャピタル論は、コミュニティの要素を結束型と橋渡し型に分ける。そして後者に注目して、外部にいかに関われているかがその地域の発展に決定的といってよいほど重要という主張がなされる。これは、地域社会の維持のためには、開かれた「関係性」という要件を具備しなければならないという帰結となる。また、震災に関連して、内閣府の幸福度に関する研究（松島ほか2013もこの中に含まれる）に見られるような、地域社会の主体の関係性を重視する論調もある。地域社会の内部構造の維持に関係性を加味すると、どうなるであろうか。その地域には何らかのかたちでコミュニティがある。関係性の議論は、このコミュニティの長短と強弱のスクリーニングを将来的に行うことに使われはしまいか。例えば、中山間地直接支払は、農業の基礎となるコミュニティをできるだけ存続させるという目的の代わりに、基層のないところに資源配分を行わないというリトマス試験紙として機能しはしないか。集落機能が弱体化して基層の力が失われてしまった場合には、直接支払が得られないことから、村おさめという別のステージへの移行を誘導することになりはしまいか。そして、さまざまな地域政策が同様の活用をなされる時、地域の関係性の強弱がナショナルミニマムや住民サービスの濃淡にも影響を及ぼすことになるのではないか。

本稿はその是非を問うているのではない。むしろ、コミュニティの関係性が施策により広く組み込まれる可能性があることを分かったうえで、中間組織や地域住民は、自分たちが今後も住み続けていくための地域の維持を考える必要があるということである。

## 2) ナショナルミニマムに及ぶ市場創設

### (1) 医療保険

農協共済制度は、市場化とコミュニティの弱化の二つの軸の中で、家計と生活に関する共通のリスクをいわば「外出し」し、家計と地域の安定を下支えした。それ自体は一種の市場化といってもよい。施策の市場化の傾向を先取りしたものともいえるであろう。そして効率的なリスク分散対応に貢献したのである。

さらにこの流れが進むとき、市場化を追い風に家計リスク・生活リスクの基礎的分野をカバーする意義は強まる。例えば医療分野である。周知のとおり、自動車の補償制度は国による自賠責保険と民間部門による任意の自動車保険という2階建てで設計されている。今後の医療保障は、この自動車保険の制度のようになるであろう。技術進歩により生み出される先端的な医療サービスは今でもその一部が民間の任意保険・共済でカバーされている。今後は国民皆保険制度のカバーする範囲は1世代前の医療技術によるものが基本となる可能性が高まる。新技術のエビデンスが明確になった段階で保険診療の対象とするからである。しかしその段階では、技術進歩によって同じ治療目的により優れた医療技術が開発されている可能性がある。こうした新しい技術による手術・投薬などの方法はしばらく

は国民皆保険制度でカバーされずに、民間保険でカバーするメニューが広がるであろう。かくて保険診療部分は徐々に縮小する。医療サービスは徐々に市場化されるのである。

### (2) 介護ニーズ

人口減少の時代に、地方圏の組織にはダイナミズムがみられる。ナショナルミニマムの市場化のもうひとつの例として、日本郵政の事業のフロンティアを拡張する活動を指摘しておく。介護分野への参入である<sup>(註9)</sup>。日本郵便が、高齢者世帯を訪問し、安否確認、買い物代行、レトルト惣菜の宅配などの生活支援サービス事業を2013年10月から始めた。

この動きは、自治体の救済とナショナルミニマムの市場化と考えられる。そもそも自治体は介護事業者の主体になるのは困難である。むしろ事業主体としての当事者能力がない以上、市町村の事業をどこかに丸投げする可能性が高い。すなわち、自治体単独で行うのでは格差が広がるばかりだから、日本郵政のサービスネットワーク網によって最低限のレベルを実施することで、格差の拡大を抑えようとする<sup>(註10)</sup>。ナショナルミニマムも金を払って得る時代となったといえるのではないか。したがってこの限りにおいて所得再分配機能の市場化・内部化といわれても仕方がないのではないか。

さらにもう一つ付け加えたい。農協組織は、農村部の介護事業は自分たちが担うと旧郵政省も含む関係省庁に主張してきた経過がある。農協には女性部組織があるから、このパワーを活用することによって介護事業も可能とした。だからこそ1992年の農協法の改正において、農協は要介護高齢者対策を「事業」

としてできるようにしたのである。2000年の介護保険制度の開始とともに、農協は介護保険事業に参入する。それはこの1992年の農協法の改正によって可能となった。

そのサービスの担い手となった女性協は、昭和33年には全国で344万人の加入者を擁していた。それが平成22年では66万人に減少している<sup>(註11)</sup>。これでは、組織的対応力に疑義を呈されても仕方ない。地域に張り巡らされたネットワークを介護事業などによって生かすという当初の目論見が崩れてしまった。農協自身が高齢者福祉事業を縮小する方針に転じたこともあり、介護の分野では、もはやそのネットワークの力を活かしえない組織であると、公共部門から見切りをつけられているのではないかと。

こうして全国ネットの活動の一翼を担う組織から、農協はもれた。今後は、漏れたなりに、市場化の流れの中で地域の特色とこれに対応する行政メニューとをにらみながら、どのようなタイプの事業によって地域社会に必要とされる組織となるのかを、それぞれの地域で考えていく必要性がいつそう高まったと考えられる。

### 3) その含意

公共部門の方向性も、本来私的な領域で形成されてきた関係性の施策への組み込みも、財政事情や地域の動向からやむを得ない選択と言わざるを得ない要素があるであろう。ここで再度注意喚起する。すでに述べたように、関係性が施策により広く組み込まれる可能性があることを分かったうえで、中間組織や地域住民は、自分たちが今後も住み続けていくための地域の維持を考える必要がある。

今後の政策メニューは地域にとっておそらくオールマイティなものではない。かつてはナショナルミニマムとされた行政サービスも市場化の対象となる以上、そのように推測せざるを得ない。「地域」の範囲を拡張して広い範囲に特定の行政サービスの拠点を点々と設け、「広い地域」全体では旧来のメニューが提供されているという体制を整えようとする可能性がある<sup>(註12)</sup>。「拡張された地域」のどこにどのような行政サービス拠点を置くかという利害調整の際に、その「狭い地域」のもつ関係性の特徴が検討材料のひとつとされるのではないかと。豊かな関係性があればある種の行政サービスは不要であるといった議論がなされるかもしれない。このように、公共部門が行う「関係性」の維持と再構築を目的に人と人とのつながりのかけがえのなさを訴える様々なシーンは、関係性の特徴を踏まえた行政サービスメニューの提示の地ならしとして行われているのではないかとはいえる。行政の補完的な位置づけで機能を発揮するのか、地域独自のサービスメニューの提供を志向するのか、中間組織の選択の幅は広がる。どちらのケースでも地域と中間組織の主体的な取り組みがいつそう求められるであろう。行政とは一味違った形で関係性の特色を意識し、これを盛り立てる活動の余地が広がると考えられる。

## 7 終わりに

本研究では、稲作農家の豊かさ観の過去と将来の展望に影響を与える要素を計量的に分析した。特に農協職員などの中間組織の機能発揮が重要な意義を持つことを浮き彫りにし

た。この結果を踏まえて、公共政策の市場化と、地域社会の関係性を考慮する政策展開というふたつの傾向が認められるとき、豊かさ観に影響を及ぼしうる中間組織として今後の事業展開を考える視点を提供した。

言うまでもなく日本全体が人口減少社会となっている。高度成長期に定着した規模拡大と成長という路線では解消できない課題がこれから噴出する。しかしこの人口減少は地方圏では早くから見られていた。そこを生き抜いて今を培っている集落もある。高齢の家族経営による稲作農家群のなかには、そのような地域のフロントランナーも少なからずいるであろう。この意味で、人口減少時代の地域を豊かにする価値観は、すでに農村にあると考えられる。その手掛かりを求めるために、稲作農家の豊かさ観で示した、経済的な尺度では測りきれない質的な豊かさをどう高め維持するかという分析視角に基づく計量分析を試みた。じつはこれが、本研究で稲作農家の非経済的な「豊かさ観」の変化の形成要因を把握しようとした動機である。「規模拡大と成長」から「規模縮小と成熟」の時代が変わっていくとき、個人観・社会観・世界観にどのような価値観が求められるか。それが個人・組合員・地域・中間組織の活動領域と活動理念の基礎となる。しかしこの課題はあまりに大きく深い。本研究のみで検討されるものでもないし、ふさわしくもない。本稿では計量分析に焦点を当てたとりまとめと若干の考察を加えたに過ぎない。その考察でも、非経済的な豊かさ観を維持もしくは高めるといふ、その視点の提示にとどめざるを得なかった。この点は今後さらに検討を深めていくこ

ととしたい。そのうえで本研究の計量分析を再構成し、また、状況が許せば追加の計量分析を行い、より広い分析視角からこの課題に取り組むこととしたい。

以上

#### 註

- 註1 渡辺(2012)で簡単なサーベイがある。
- 註2 農林水産省『世界農林業センサス』。ただし1985年以降は販売農家。
- 註3 東西冷戦下で経済的活動に傾斜して西側陣営の「豊かさ」を訴える役割を演じてきた日本は、冷戦終了後の国際的な役割を見いだせないまま、ゆっくりと経済的弱体化の道を歩む方向にある。この状況を評してあたかも国家として漂流しているとする者もいた(伊藤(2012))。「1億総白痴化」以来、リーダー不在の状況を嘆く声はかまびすしい。なお、農村のリーダーに関する議論では、多くのリーダーは、痛々しいほど周りに気を使う人たちであることがその特質として指摘されてきた。のちに述べるが、一部の計測結果では、地域にリーダーがいるほどに将来の豊かさへの期待が低くなる例がみられる。リーダーに対する批判なのか、従来型リーダーのいる地域では将来像を描くのが困難な状況なのか、この点は議論の余地がある。
- 註4 松島ほか(2013)に準じて掲げる。
- 註5 Gallup World Pollでは、現在と将来の生活満足度の相関が高いため、これら2つを合わせてひとつの尺度として分析している。Helliwell, Layard and Sachs (2012)によるWorld Happiness Report (2012)ではGallup World Pollの現在の生活満足度に対する結果のみが検討の対象であった。
- 註6 なお、推計にはNLOGIT5.0を用いたので、プログラム上でコード1・2・3を順に0・1・2に再変換している。次の(b)も同様。
- 註7 (c)～(f)の変数の構成が可能なが示すように、本研究のデータでは、豊かさの過去と未来の相関は高くなかった。一本調子の傾向が主流ではないことを示唆する。これが農山村の傾向であるかどうかは、別途検討したい。
- 註8 1)の第1・2表に相当する推計結果の表は省略する。2013年度東京大学大学院農学生命科学研究科農学国際専攻講義「国際環境管理学特論」の配布資料を参照されたい。
- 註9 報道記事を以下に掲げる。「日本郵便が高齢者支援事業 10月から安否確認などー日本郵政グループの日本郵便が、高齢者世帯を訪問して安否を確認したり、買い物を代行したりする生活支援サービス事業を今年(2013年)10月に始めることが26日、分かった。北海道、宮城、山梨、石川、岡山、長崎の6道県の一部地域にある計103郵便局で試験的に実施。2014年4月から順

次拡大し、15年4月の全国展開を目指す。

郵便局員が郵便や貯金・保険の窓口業務以外を行うのは初めて。

日本郵政グループは、15年春の株式上場を視野に収益力向上を目指している。日本郵便でも新たな事業により全国約2万4千局の郵便局ネットワークを活用することにした。」(2013/08/26 10:55 共同通信)

・試行サービスの内容

[http://www.post.japanpost.jp/notification/pressrelease/2013/00\\_honsha/0826\\_01\\_01.pdf](http://www.post.japanpost.jp/notification/pressrelease/2013/00_honsha/0826_01_01.pdf)

註10 田村厚生労働大臣の談話にある「各自治体に、知恵を出し、工夫をしてもらえば、費用が抑えられる。また、かゆいところに手が届くようなサービス」の重点的・効率的な提供という方針は、郵政を活かすための取り組みだったのかとも推測されるのである。

註11 [http://www.ja-zenjyokyo.jp/topics/130219/130204\\_02.pdf](http://www.ja-zenjyokyo.jp/topics/130219/130204_02.pdf)

註12 平成の大合併は、まさにこれを行政区画の拡張で措置したのである。交付金を誘因に合併した自治体のその後の財政事情の悪化から、霞が関は同じ手法は取りづらいであろう。むしろ広域のソフトな区割りを何らかの形で行おうとするのではないか。介護サービスの提供圏の拡張などはその候補である。なお、道州制は、県ベースでこの公共サービスの濃淡をつけることになる可能性が高い。

#### 引用文献

- ・ Blanchflower, D.G. and A.J. Oswald (2004) "Well-being over time in Britain and the U.S.," *Journal of Public Economics*, Vol. 88 (7-8), 1359-86.
- ・ Blanchflower, D. G. and A. J. Oswald (2008) "Is well-being U-shaped over the life cycle?" *Social Science & Medicine*, vol. 66 (8), pp.1733-1749.
- ・ Boarini, R., A. Johansson and M. Mira d' Ercole (2006) "Alternative Measures of Well-being," OECD Economics Department Working Paper, No. 476.
- ・ Brockmann, H., J. Delhey, C. Welzel and H. Yuan (2008) "The China Puzzle: Falling Happiness in a Rising Economy," *Journal of Happiness Studies*, pp.387-405.
- ・ Clark, A. E. and A. J. Oswald (1994) "Unhappiness and Unemployment," *Economic Journal*, Vol.104, pp.648-659.
- ・ Di Tella, R., R. MacCulloch, and A. Oswald. (2001) "Preferences over inflation and unemployment: evidence from surveys of happiness", *American Economic Review*, Vol.91, 335-41.
- ・ Durayappah, A. (2011) "The 3P model: A general theory of subjective well-being," *Journal of Happiness Studies*, vol.12, pp.681-716.
- ・ Easterlin, R. (1974) 'Does Economic Growth Improve the Human Lot?' in P.A. David and M.W. Reder, (eds) *Nations and Households on Economic Growth: Essays in Honor of Moses Abramovitz*, New York: Academic Press, Inc.
- ・ Easterlin, R. (2003) "Explaining Happiness", *Proceedings of the National Academy of Science*, vol.100 (19), pp.1176-1183.
- ・ Frey, B. S. and A. Stutzer (1999) "Measuring Preferences by Subjective Well-Being," *Journal of Institutional and Theoretical Economics*, Vol.155 (4), pp.755-88.
- ・ Gallup (2010) Understanding How Gallup Uses the Cantril Scale. Available from <http://www.gallup.com/poll/122453/understanding-gallup-uses-cantril-scale.aspx>
- ・ Hagerty, M. R. (2000) "Social Comparisons of Income in One's Community: Evidence from National Surveys of Income and Happiness," *Journal of Personality and Social Psychology*, Vol.78, pp.746-771.
- ・ Helliwell, J; R. Layard and J. Sachs (2012) *Happiness World Report 2012*, Earth Institute, Columbia University.
- ・ 色川卓男 (1999) 「結婚・出産・離婚で女性の生活満足度はどう変わるか」樋口美雄・岩田正美著『パネルデータからみた現代女性』東京、東洋経済新報社、pp.193-223.
- ・ 伊藤淳夫 (2012) 『国家漂流—そしてリーダーは消えた』中央公論新社
- ・ Kimweli, M.S. and E.Stilwell (2002) "Community subjective well-being, personality traits, and quality of life therapy, *Social Indicators Research*," vol.60, pp.193-225.
- ・ 神取道宏 (2013) 「あなたを変えるミクロ経済学」『経済セミナー』NO673
- ・ 喜多川進 (2013) 「ドイツ容器包装廃棄物政策に関する環境政策史的考察」寺尾忠能『環境政策の形成過程—「開発と環境」の視点から—』所収 アジア経済研究双書 アジア経済研究所
- ・ 松島みどり、立福家徳、伊角 彩、山内直人 (2013) 「現在の幸福度と将来への希望—幸福度指標の政策的活用—」New ESRI Working Paper No.27 [http://www.esri.go.jp/jp/archive/new\\_wp/new\\_wp030/new\\_wp027.pdf](http://www.esri.go.jp/jp/archive/new_wp/new_wp030/new_wp027.pdf)
- ・ 内閣府経済社会総合研究所 (2011) 『幸福度に関する研究会報告—幸福度指標試案—』  
<<http://www5.cao.go.jp/keizai2/koufukudo/koufukudo.html>> [accessed 30 September 2012].
- ・ 大竹文雄・白石小百合・筒井義郎 (2010) 『日本の幸福度 格差・労働・家族』日本評論社
- ・ 大竹文雄 (2004) 「失業と幸福度」日本労働研究雑誌No. 528/July 2004, pp.59-68.
- ・ 奥野正寛 (2008) 『ミクロ経済学』東京大学出版会
- ・ 佐野晋平・大竹文雄 (2007) 「労働と幸福度」日本労働研究雑誌No. 588/July 2007, pp.4-18.
- ・ 生源寺眞一 (2010) 『農業と農政の視野—論理の力と歴

史の重み』農林統計出版

- ・ Simsek, F. (2009) “Happiness revisited: Ontological well-being as a theory-based construct of subjective well-being,” *Journal of Happiness Studies*, vol.10, pp.505 – 522.
- ・ Stutzer, A. and R. Lalive (2004) “The Role of Social Work Norms in Job Searching and Subjective Well-Being,” *Journal of the European Economic Association*, vol. 2 (4) , pp. 696 – 719.
- ・ 辻村江太郎 (1977)『経済政策論』筑摩書房
- ・ 筒井義郎・大竹文雄・池田新介 (2005)「なぜあなたは不幸なのか」ISERディスカッションペーパー, No.630.
- ・ Veenhoven, R (2008) “Healthy happiness: Effects of happiness on physical health and the consequences for preventive health care,” *Journal of Happiness Studies*, Vol.9, pp.449 – 469.
- ・ 渡辺靖仁 (2011)「地域の潜在力をつかむ－「地域の今」確認シートによる気づきの試論－」『創立20周年記念論文集』農協共済総合研究所、18－53頁
- ・ 渡辺靖仁 (2012)「農業構造の変化と保障需要－アンケート調査結果を用いた稲作農家の保障ニーズ分析」『保険学雑誌』617号